

編集後記

本広報誌の名前にもなっている「SENAC-1 (Sendai Automatic Computer-1)」が誕生して本年 11 月で 50 年になります。SENAC-1 は、本センターの前身の大型計算機センターの初代センター長である大泉充郎先生が、諸外国に後れを取っていた我が国のコンピュータの研究開発の状況を打破し、国産コンピュータ技術の確立を目的として本格的なコンピュータの設計・開発を NEC と共同で行ったもので、高精度高速加算/乗算/除算回路に加えて、インデックスレジスタ修飾命令や先行制御などその当時先駆的な方式を数多く導入していました。大泉先生の退官記念資料によると、その開発はすさまじいもの（命がけ？）だったようですが、その熱意が実り 1958 年 11 月に完成しました。SENAC-1 は、NEC が出荷した第 1 号のコンピュータ NEAC-1102 として製品化され、NEC におけるコンピュータ開発の原点としても位置付けられます。また、SENAC-1 の開発を通して、数多くの研究者・技術者が育成され、学界・産業界へ多大な貢献をもたらしました。その後、SENAC-1 の運営が軌道にのり利用者が増えてきたことから、計算センターとしての新たな組織作りの気運が高まり、1969 年に東北大学大型計算機センターが設置され、現在に至っております。センター教職員一同 SENAC-1 の 50 歳の誕生日をお祝いすると共に、大泉先生の SENAC 開発・センター設立の精神を引き継ぎ、利用者から高く評価されているベクトル型スーパーコンピューティングを核とした学術情報基盤に関する全国共同利用・共同研究拠点化をより一層推進し、今後とも我が国の計算機科学・計算科学の発展に貢献していきたいとおもいます。(H.K)

今号には大規模科学計算システム利用の共同研究成果が掲載されています。これは本センタースタッフとプログラムの高速化を実施して得られた成果で毎年実施しています。この共同研究の募集要項は、毎年本 SENAC 1 月号およびセンターウェブサイトの「お知らせ」に掲載されますので是非ご覧ください。

さて、今年 3 月に更新されたスーパーコンピュータシステム SX-9 は稼動して半年が過ぎました。処理能力は従来の約 10 倍となりましたが、学外からの利用も増えてジョブの待ち行列ができております。年度後半はジョブが混みあいますので早めのご利用を期待しております。(N.K)

SENAC 編集部会

小林広明 曾根秀昭 水木敬明 後藤英昭 江川隆輔
伊藤英一 加藤 昇 山内 斎 斉藤くみ子

平成 20 年 10 月発行

編集・発行 東北大学
サイバーサイエンスセンター
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
郵便番号 980-8578

印刷 大成印刷株式会社